

科目名	教職入門		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- (1) 今日の学校教育上の具体的な課題を考察し、認識を深める。
- (2) これからの教職員に求められている資質や能力を養うとともに心構えなどについての認識を深める。
- (3) 教員採用試験の実際を学び、自己の進路実現に向けての方策を具体的に立てる。

内容

1	(1) 教職員の職務と校務分掌・教職員に求められる資質や能力
2	(2) 学習指導要領とその法的意義
3	(3) 学習指導要領(中学校・高等学校)と特色ある教育課程の編成・実施
4	(4) 総合的な学習の時間と「生きる力」
5	(5) 新しい学力観と評価
6	(6) 授業の改善とその工夫
7	(7) 生徒指導とカウンセリングマインド
8	(8) 進路指導とキャリア教育
9	(9) 教育法規とその内容 (教育基本法・学校教育法等)
10	(10) 教職員の研修とその体系
11	(11) 教職員に求められる資質や能力
12	(12) 教員採用試験の実際とその対応 (1)
13	(13) 教員採用試験の実際とその対応 (2)
14	(14) 模擬授業とプレゼンテーション
15	(15) 進路実現に向けての具体的な方策

評価

出席20点・ペーパーテスト60点・発表と課題提出20点で総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】現代実践教職入門(学事出版)・毎時間配布される資料

【推薦書】推薦図書は授業の際に紹介します。

科目名	教育基礎論		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の位置づけ：教職課程の基礎科目として、各教科の基礎となる教育の基本理念、ならびに教育の歴史や思想について学習する。また今日の教育改革の動きなど、現代社会の動きと日本、諸外国の状況の変化と教育の関係についても触れる。

2 ねらい：教育についての、社会的、制度的事項、さらに情報化社会、国際化社会、生涯学習の時代など時代と人材論など、社会と人との関係に教育がどのように機能しているかなどを考える。教育現象を広くとらえ、現代社会における教育のあり方、人間形成のありかたにも触れる。

内容

- (1) 現代教育の諸課題
- (2) 新しい社会・21世紀の教育に向けて
- (3) 教育改革の現状・取り組みの軌跡
- (4) 新しい学力観
- (5) 能動的な学習者を育てる
- (6) 社会生活と教育：教育の機能と役割
- (7) 子どもと社会環境
- (8) 子ども観の変化
- (9) 「子ども」の誕生の歴史
- (10) 公教育と子どもの権利
- (11) 近代学校の成立と学校の歴史
- (12) 学校制度と教育体系
- (13) 学校文化・教師文化
- (14) 教師－生徒関係、学校を支える人たちの協働の時代
- (15) 生涯学習時代の学習・教育

評価

課題レポート60点、発表・グループワーク30点、出席10点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介する

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職志望の初学者を主な対象としつつ、学習の動機づけ、学習の基礎理論、教授学習における学習理論、教育評価と教育測定について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。さらに、障害をもった生徒の学習の過程などについても取り扱う。

児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育や学習について考えるヒントを提示するのが本講義のねらいである。

内容

1．教育心理学とは

- ・教育活動とは何か
- ・学校教育と教育心理学

2．学習の動機づけ

- ・欲求と動機づけ
- ・内発的動機づけ
- ・統制感、原因帰属
- ・期待 - 価値モデル

3．学習の基礎メカニズム

- ・学習と条件づけ
- ・観察学習と学習の諸相
- ・学習における記憶の役割
- ・問題解決としての学習

4．授業における学習理論

- ・プログラム学習、発見学習、有意味受容学習
- ・適性処遇交互作用
- ・総合的な学習の時間

5．学習成果の評価と測定

- ・評価の意義と役割・絶対評価、相対評価、到達度評価
- ・診断的評価、形成的評価、総括的評価・心理検査と心理測定

評価

評価は、学期末試験100点満点により行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、教育活動を理解するために有効である教育心理学の理論や知見を正確に理解し自らの知識として定着しているのかである。毎回の授業における内容を論理的に理解し、必要な事項を身につけることを求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童生徒の心身の発達、学級・学校集団の特質、学校臨床を中心に取り上げる。学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解するとともに、児童期から青年期へと進む児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかについて、心理学的な知見を学ぶとともに、日常生活のなかでの現象を具体的に考える。さらに、障害をもった生徒の心身の発達などについても取り扱う。

本科目のねらいは、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかを、科学的かつ客観的にとらえ直す視点を提示し、分析的に理解する試みの機会を提供することにある。

内容

1．発達

- ・発達の一般的特徴 ・遺伝的要因と環境的要因
- ・発達段階と発達課題

2．知的能力・社会性の発達

- ・知的能力の発達 ・学力と学業不振
- ・道徳性の獲得 ・ソーシャルスキル

3．学習者の特性理解

- ・パーソナリティの理論と測定法
- ・障害とは何か ・特別支援教育

4．学級集団、学級の間人間関係

- ・学級集団の特殊性 ・教師期待効果
- ・学級雰囲気と目標達成 ・生徒間の人間関係

5．学校臨床

- ・学校不適応 ・心身の健康問題とその支援

評価

評価は、学期末試験100点満点で行う。なお、単位認定にあたっては、欠席が授業回数の1/5以下であることを必須条件とする。

評価の基準は、授業内で扱った教育心理学の知見や理論を体系的に理解し自らの知識として獲得しているか、学校教育現場での諸相に獲得した知識を適用してより深い理解や支援の方法を考えることができるようになったかという点である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 桜井茂男編 『たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/中学校教諭一種免許状(社会)/高等学校教諭一種免許状(公民)/高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校一種・高校一種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

道徳教育の理念や歴史について理解を深め、中学校・高等学校における道徳教育の進め方について多角的に考察する。

【留意すべきこと】 中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)
14	14	模擬授業の実践(2)
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. 学校教育の今日的課題である「生きる力」を育成することが重要な課題である。その課題を果たすべき役割を特別活動の視点から考察する。
2. 特別活動の理念や歴史について学び、学校教育における特別活動の位置づけについて理解を深めるとともに、特別活動の進め方について実践的に考察する。
3. 中学校・高等学校における特別活動の目標・内容・指導のありかた等について考察する。

本科目は、教員免許法に定める科目に対応する。教員の免許を取得しようとする者は、必修である。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）	
14	14. 模擬授業の実践（2）	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。

特に教育課程編成に関わる知識と教育方法理論の関係を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷（1）教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷（2）経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷（3）近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法（1）学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法（2）教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法（2）新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷（1）歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷（2）現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 最終試験

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。プレゼンテーションファイルはホームページで随時公開している。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 出席状況（30％）
- 2 最終試験の達成度（70％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない

科目名	教育方法		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育方法は広義には、教育内容、学習形態、教授組織、教育メディア、学級経営、生活指導、学習環境、授業評価など、学校教育に関するあらゆる技術的な問題を扱う分野である。

本講義では、授業設計を中心に学ぶ。授業設計の中に取り入れるさまざまな情報機器の活用（特にコンピュータの利用）の方法について学ぶ。

内容

1. 教授・学習過程のシステム分析（ブラックボックスと制御システム）
2. 教授・学習過程とコミュニケーション過程（コンフリクトをもつフィードバックシステム）
3. カリキュラム開発と教育工学
4. 授業目標の設定（教育目標の分類と行動目標、評価の観点、ルーブリック）
5. 学習集団の編成（学級集団、集団の機能、集団学習形態の特質、集団の編成）
6. 授業の個別化の理論と実際（適性処遇交互作用、コンピュータによる個別化）
7. 教材とその開発研究（教材作成の意義、教材の評価の観点、教材作成の研究的意義）
8. 教授メディアの考え方
9. 教授メディアを活用した学習指導案と授業実施
10. ICT（情報機器）の授業への利用と実際
11. プロジェクタ教材を活用した授業（プレゼンテーション技法）
12. コンピュータ実習（コースウェア作成技法1）
13. コンピュータ実習（コースウェア作成技法2）
14. 授業改善のための評価基準
15. まとめ

評価

最終レポート（50%）、課題等の提出物（30%）と授業中の課題への取り組む（10%）、出席状況（10%）による総合的な評価とし、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定なし。毎時間資料を配布する。授業用フォルダ内に授業用ワークシートを置く。

【参考書】教育方法 の教科書、松平信久・横須賀薫編『教育の方法・技術』（教育出版）。

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生徒指導については、高校時代までに、指導を受けるという経験を通して、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法（観察法）
8. 児童・生徒理解の方法（面接法）
9. 児童・生徒理解の方法（検査法）
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. 試験

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて、別途プリントや資料を配布して、講義形式で行う。そして、質問を発して考えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回、授業の最後の5分間で、その時間に学んだ事項に対する理解を深めるべく、課題を与えて解答してもらう。

評価

出席と受講態度（10点）、レポート（10点）、試験（80点）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

江川? 成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- (1) 学校教育相談・学校カウンセリングについての基本的な知識を学ぶ。
- (2) 学校教育相談担当者として必要な臨床的知識と資質について学ぶ。

内容

1	(1) 生徒指導における教育相談の位置づけ
2	(2) 生徒指導の内容と教育相談
3	(3) 生徒理解と生徒指導の方法
4	(4) 問題行動の意味と枠組み
5	(5) 学校における教育相談の意義と特色
6	(6) 学校教育相談の担当者
7	(7) 学校教育相談の基本的考え方
8	(8) 教育相談・カウンセリングの理論
9	(9) 教育相談・カウンセリングの進め方
10	(10) 学校教育相談におけるドラマ的手法の活用
11	(11) カウンセリングの基本技法
12	(12) カウンセリングの模擬体験(1)
13	(13) カウンセリングの模擬体験(2)
14	(14) カウンセリング実習(1)
15	(15) カウンセリング実習(2)・評価とまとめ

評価

レポート課題60点及び平常の成績、出席等40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】長谷川栄、杉原一昭編 『生徒指導と教育相談』教職教育講座第5巻 協同出版

【推薦書】渡辺弥生 『学校だからできる生徒指導・教育相談』 北樹出版 375.2/G

中野武春 『学校教育相談がわかる本』 ぎょうせい 375.2/N

北島貞一 『学級で活かす教育相談』 ぎょうせい 375.2/G

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。形式は、レポート50点、実習日誌50点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育実習		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、1単位に相当する。

内容

1. 事前指導（8時限相当の時間を配当する）

- （1）教育実習オリエンテーション
- （2）実習時における勤務・サービスの心得
- （3）実習記録の作成法
- （4）配当科目についての最終的な指導案作成
- （5）実習校訪問

2. 中間指導（4時限相当の時間を配当する）

- （1）前期実習を振り返っての反省会
- （2）実習日誌の中間提出
- （3）後期実習に向けての指導

3. 事後指導（3時限相当の時間を配当する）

- （1）教育実習総括反省会の実施
- （2）実習校訪問

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への出席、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

なお、本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「情報科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)前期実習(選択)である。

内容

協力校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育実習		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに習得してきた、教授・学習、教育方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力を身につける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。
3. 本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「社会科」で必修とされる4単位中の2単位分、および高等学校一種「公民科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)の増加単位(選択)の2単位分に対応する。

内容

教育実習協力校における、3週間以上の授業の担当(中学校社会科または高等学校公民科)による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

実習校の指示による。

科目名	教育実習		
担当教員名	島村 豊博、向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。 なお、本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習(必修)、高等学校一種「英語科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)前期実習(選択)である。

内容

協力校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育実習		
担当教員名	安達 一寿、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1．教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。
- 2．学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

内容

協力校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教育実習		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1．教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに習得してきた、教授・学習、教育方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力を身につける。
- 2．学校現場での、実際の勤務経験をとおして、自身の教職についての適性を見極める。
- 3．本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「社会科」で必修とされる4単位中の2単位分、および高等学校一種「公民科」で必修とされる2単位分に対応する。

内容

教育実習協力校における、2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習校の指示による。

科目名	教育実習		
担当教員名	島村 豊博、向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。
2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。 なお、本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）前期実習（選択）である。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	教育実践論		
担当教員名	向後 朋美、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教員免許取得のために義務づけられている「介護等体験」に必要な基本的知識を学び、体験の対象となる社会福祉サービスを利用している人、社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を図る。

内容

1. 事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

2. 介護等体験

3. 事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 出席： 30%
- (2) 授業態度： 20%
- (3) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	総合演習		
担当教員名	井口 磯夫、鎌田 恒夫、橋本 ヒロ子、宮城 道子 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- ・人類共通の課題として国際理解、環境問題等があり、わが国の課題としては福祉・健康や家族関係等が挙げられる。これらの中から複数の課題について、受講者の興味関心に応じて具体的なテーマを選択し、複数の教員の専門分野から指導を受けて、現実の社会の状況を適切に理解できるようにする。
- ・演習・実習を通して、文献や資料の検索方法、身近な観察、実験、野外実習に基づく生命科学や自然科学からのアプローチの方法、社会福祉等における現場教育の意義、コンピュータを駆使してのデータのまとめ方、口頭や文章による成果の公表の仕方などを身に付ける。

内容

- (1) 総合科目の意義とねらい、4領域の課題に対して、共通のテーマを設定する。
- (2) 情報社会と教育（井口磯夫）、情報教育の流れについて「福祉」という視点から調査する。情報バリアフリー、ユニバーサルデザイン、デジタルディバイドなどについて議論する（3回）。
- (3) 生命科学と環境問題（鎌田恒夫）、生命科学からみた「環境問題」が生態系に与える影響の調査、食化学と環境問題について学ぶ。合わせて、福祉との関連から探究する（3回）。
- (4) 国際理解教育（橋本ヒロ子）、世界の福祉行政について、必要な情報の収集、判断の基準などについてインターネットを活用して実習する。（3回）
- (5) 地域社会と福祉（宮城道子）、現代社会における福祉の理念を理解する前提として、社会福祉制度や施設についての基礎知識の講義および見学・実技等の体験的授業を行う（3回）。
- (6) 発表会（受講者全員）
- (7) まとめ

評価

各担当教員が課する課題（20%ずつ）について合計80%、出席率（20%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が授業中に配布する。

科目名	日本史概説		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この授業では、日本史の流れをその時の政治体制とそれに大きな影響を与えたものを軸に論じたい。

中心は、明治以降の近代化におき、日本はどのようにして現在に至ったかを

明治政府の誕生とその動き、日清・日露戦争、第2次世界大戦まで、戦後政治などの中から探る。

その関連として、天皇、武家政権、宗教、憲法、諸外国との関係などを取り上げる。

過去の過ぎ去った事物をみるということではなく、日本史を学ぶことにより、現在の日本の理解に役立つ内容とすることを目標とする。

内容

- ・ 明治維新と明治憲法体制 - 明治憲法の制定、帝国議会の開設
- ・ 日清戦争・日露戦争
- ・ 第2次世界大戦までの日本
- ・ 戦戦と戦後改革 - 日本国憲法制定、戦後体制
- ・ 戦後政治 - 55年体制、高度経済成長、日米関係、小泉内閣以降の政治課題

- ・ 日本のおかれた地政学的条件 - 近隣諸国・欧米との関係
- ・ 天皇家と政治、武家政権
- ・ 江戸時代 - 徳川政権、幕藩体制、鎖国、幕末の対外関係
- ・ 宗教と政治

評価

小テスト2回（70%）、出席点（30%）により総合評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

石川真澄「戦後政治史」岩波新書

黄文雄「捏造された昭和史」ワックBUNKO

科目名	情報と職業		
担当教員名	岡田 桂治		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 情報化の進展が職業の多様性をもたらす事を理解する。
2. 職業人としての基本を修得すると共に、情報産業分野の特徴を理解する。
3. 将来の方向を選択するための進路指導の基本精神を理解する。

内容

以下の内容を中心にした講義と共に、ディスカッションを通じて自ら考える力を養成する。

講義の方法は白板、作成資料によるレクチャーと班分けによるディスカッションである。

1. 仕事と自己実現について考える
2. 社会構造の変化と職業の変遷
3. 情報化の進展と産業および社会生活の変化について
4. 技術の変遷と職業意識の変化
5. 情報社会を支える技術とその特徴
6. 情報技術と人材育成
7. インターネットと著作権
8. 企業経営と知的財産権
9. 企業におけるリスク管理と社員の心構え
10. 企業の求める人材像
11. 雇用動向と新しい雇用システムの方向
12. 就業に関する法・制度・仕組み
13. 進路指導の目的と内容
14. 進路指導上の留意点
15. 職業観・進学観の確立

評価

ペーパーテスト・レポート(50点)、授業態度・発言内容(30点)、出席率(20点)により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	社会教科教育法（公民科教育序論）		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 初等中等教育における、社会科教育全体の教育課程について理解する。
 - 2 高等学校教育における公民科教育の意義について学ぶ。
 - 3 本科目は、教員免許法に定める「各教科の指導法」（中学8単位中の2単位・高校4単位中の2単位）に対応する。
- 注意） 教育法規・教育史については、1年次開講科目における当然の既習事項であると見なす。

内容

- 1 戦後の教育改革と社会科の設置
- 2 社会科教育課程の変遷
- 3 高等学校教育課程の改編と公民科の設置
- 4 「公民的資質」の概念
- 5 地理・歴史教育と公民教育の関連
- 6 道徳教育との関連
- 7 教科外教育活動との関連
- 8 様々な授業の形態
- 9 資料活用の方法
- 10 評価法の基本
- 11 優れた実践事例
- 12～14 指導案の作成と模擬授業
- 15 期末試験

評価

出席・課題提出・期末試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』をテキストとして使用する。その他参考図書については、授業中に適宜指示する。

科目名	教職演習		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／高等学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- (1) これからの学校教育や教職員の在り方などについて、具体的な課題を取り上げ考察する。
- (2) これからの教職員に求められている資質や能力及び心構えなどについての認識を深める。
- (3) 教員採用試験の実際を学び、自己の進路実現に向けての方策を具体的に立てる。

内容

1	(1) 教職員に求められる資質や能力
2	(2) 現行学習指導要領の特色
3	(3) 学習指導要領（中学校・高等学校）と特色ある教育課程の編成
4	(4) 総合的な学習の時間と「生きる力」
5	(5) 新しい学力観と評価
6	(6) 生徒指導上の課題とその対応
7	(7) ホームルーム活動・学級活動
8	(8) 進路指導とキャリア教育
9	(9) 教育相談とカウンセリングマインド
10	(10) 教育法規とその内容（1）
11	(11) 教育法規とその内容（2）
12	(12) 教員採用試験の実際とその対応（1）
13	(13) 教員採用試験の実際とその対応（2）
14	(14) 模擬授業とプレゼンテーション
15	(15) 進路実現に向けての具体的な方策

評価

試験(75)・発表(10)・課題提出(5)・出席の状況(10)などをもとに総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『現代実践教職入門』 学事出版

毎時間配布される資料もテキストです。

科目名	情報教科教育法		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。
 普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。
 教科「情報」の年間学習指導計画の作成技法を学ぶ。
 以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成することをねらいとする。

内容

- ・現代社会における情報の意義や役割の理解
- ・初等中等教育における情報教育の全体像と目標
- ・普通教科「情報」と専門教科「情報」のねらいの違い、教科構造と科目構成
- ・問題解決と演習の設計、演習課題選択の観点
- ・目標分析と年間指導計画の作成
- ・「情報A」「情報B」「情報C」科目の性格と目標
- ・普通教科「情報」授業計画案と教材作成
- ・受講者による模擬授業、実習の役割
- ・授業評価と学習評価の考え方

評価

授業への出席、教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。
 形式は、課題（40%）、最終レポート（60%）を総合して、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

本村猛能他著、『情報科教育法』、学術図書出版社
 文部省、『高等学校学習指導要領解説 情報編』、開隆堂出版株式会社

【参考図書】

大岩元他著、『情報科教育法』、オーム社
 岡本敏雄他著、『情報科教育のための指導法と展開例』、実教出版株式会社

科目名	情報教科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。
 普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。
 教科「情報」の年間学習指導計画の作成技法を学ぶ。
 また、学習指導案の作成や教材の作成、模擬授業(マイクロティーチング)を実施する。
 以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成することをねらいとする。

内容

- ・高度情報通信社会における情報技術の進歩と諸課題
- ・専門教科「情報」の教科構造、科目構成、性格と目標
- ・「課題研究」「情報産業と社会」「情報実習」「情報と表現」「マルチメディア表現」「ネットワークシステム」「モデル化とシミュレーション」「コンピュータデザイン」科目の性格と目標
- ・専門教科「情報」授業計画案と教材作成
- ・受講者による模擬授業、実習の役割
- ・授業評価と学習評価の考え方

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。
 形式は、レポート50点、マイクロティーチング50点により評価を行い、60点以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

本村猛能他著、『情報科教育法』、学術図書出版社
 文部省、『高等学校学習指導要領解説 情報編』、開隆堂出版株式会社

【参考図書】

大岩元他著、『情報科教育法』、オーム社
 岡本敏雄他著、『情報科教育のための指導法と展開例』、実教出版株式会社

科目名	社会・公民教科教育法		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 高等学校公民科の教育課程について理解するとともに、公民科カリキュラムの実際について学ぶ。
- 2 公民科を構成する三科目の具体的な指導法を学ぶ。
- 3 本科目は、教員免許法に定める「各教科の指導法」（中学 8 単位中の 2 単位・高校 4 単位中の 2 単位）に対応する。

内容

- 1 公民科の教科構造
- 2 公民科の教育目標
- 3 「現代社会」 - 科目の性格と目標
- 4 「現代社会」 - 内容構成
- 5 「倫理」 - 科目の性格と目標
- 6 「倫理」 - 内容構成
- 7 「政治・経済」 - 科目の性格と目標
- 8 「政治・経済」 - 内容構成
- 9 指導案作成の基本
- 10～12 指導案作成の演習
- 13～14 模擬授業の実施
- 15 期末試験

評価

出席・課題提出・期末試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』をテキストとして使用する。その他参考図書については、授業中に適宜指示する。

科目名	英語教科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

中学校・高校の教育課程全体における英語科カリキュラムの位置づけを背景として、英語科カリキュラム の実際について概論的に学びます。さらに、英語科教育の理論と方法について基礎的な事項を学びます。

内容

- (1) 英語教育の目標
- (2) 英語科カリキュラムの特色（学校教育内の位置づけ等を背景にして）
- (3) 中学校学習指導要領の概要とその実践方法
- (4) 高校学習指導要領の概要とその実践方法
- (5) 言語の習得に関する理論
- (6) 各種の英語教授法理論と方法
- (7) 語彙・文法の学習と指導
- (8) リスニングの学習と指導
- (9) スピーキングの学習と指導
- (10) リーディングの学習と指導
- (11) ライティングの学習と指導
- (12) 音声教材・LL教室等の教育機器を利用した学習と指導
- (13) ~ (15) 教案の作成・期末試験

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とするが、毎週行う復習テストは100点満点中の平均点70点以上となるように努力すること。

- (1) 定期試験： 60%
- (2) 平常点： 40% （復習テスト（毎週）、課題提出（毎週）、出席状況）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』, 米山朝二著, 松柏社, 2400円+税.

『英語 基礎からできる総復習』, 創育, 880円+税.

【推薦書】『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円 + 税.

科目名	英語教科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

前期で学んだ点をふまえて、中学校・高校で実際に授業を担当した場合を常に念頭に置き、わかりやすい説明を行うための基礎となる基礎的かつ実践的な文法を適宜演習形式を取り入れて学びます。

内容

(1) 文における基本的イントネーション (2) 文字及び基本的な符号 (3) 文の構成と基本文型 (4) 文の種類（疑問文、命令文、感嘆文、there構文） (5) 名詞・名詞句 (6) 代名詞 (7) 動詞・動詞句 (8) 時制と相 (9) 態 (10) 形容詞・副詞 (11) 不定詞 (12) 動名詞 (13) 分詞 (14) 現在完了 (15) 関係詞

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とするが、毎週行う復習テストは100点満点中の平均点70点以上となるように努力すること。

- (1) 定期試験： 60%
- (2) 平常点： 40% （復習テスト（毎週）、課題提出（毎週）、出席状況）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『英語教育 実践から理論へ』，米山朝二著，松柏社，2400円+税
『英語 基礎からできる総復習』，創育，880円+税。
- 【推薦書】『英語学習7つの誤解』大津由紀雄、NHK出版、700円 + 税。

科目名	英語教科教育法		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1) 「英語教科教育法」(2年前期)で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学ぶ。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとする。

内容

次のような授業計画で進めていく。

- (1) 公開研究授業のビデオの視聴
- (2) 授業の構成(年間の授業計画の中での位置付けと1時間ごとの授業設計)
- (3) Listening、Speaking、Reading、Writing の4技能の実際的指導
- (4) 文法・語彙の指導
- (5) 教材研究(中学校英語教科書と副教材の分析)
- (6) 学習指導案の作成
- (7) 模擬授業(学生同士の授業分析と評価)

上記と並行して、英語力アップのための小テストを毎回行うとともに、動詞、準動詞を中心に英文法の総整理をおこなう。

評価

授業への参加状況(出席状況も含む)20%、小テスト40%、レポート、または期末テスト40%の割合で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』米山朝二著、松柏社

必要に応じてプリントを配布する。

推薦書については授業の際に指示する。

科目名	英語教科教育法		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「英語科教科教育法」(2年後期)と同様にじっさいに授業を担当することを念頭に置きながら、発展的な文法事項について適宜演習方式を取り入れて学び、自信をもって教育実習に臨めるようにする。

内容

(1)「英語科教科教育法」(2年前期)で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学ぶ。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4年次の教育実習への橋渡しとする。

(2)「英語科教科教育法」(2年後期)と同様にじっさいに授業を担当することを念頭に置きながら、発展的な文法事項について適宜演習方式を取り入れて学び、自信をもって教育実習に臨めるようにする。

評価

授業への参加状況(出席状況も含む)20%、小テスト40%、レポート、または期末テスト40%の割合で評価を行い、60点以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『英語教育 実践から理論へ』米山朝二著、松柏社

必要に応じてプリントを配布する。

推薦書については授業の際に指示する。

科目名	倫理学		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 高等学校公民科「倫理」・「現代社会」の指導に必要な、思想史の通史を学ぶ。
- 2 高等学校公民科「倫理」の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。
- 3 本科目は、教員免許法施行規則に定める、中学1種「社会」・高校1種「公民」の「教科に関する科目」中の2単位分（選択科目）に対応する。教職課程のみの特設科目である。

内容

- 1 高等学校公民科「倫理」における「先哲学習」の位置づけについて
- 2 古代ギリシアの思想
- 3 初期キリスト教の成立と展開
- 4 初期イスラム教の成立と展開
- 5 初期仏教の成立と展開
- 6 奈良時代における仏教受容
- 7 平安仏教と鎌倉仏教
- 8 諸子百家の思想
- 9 朱子学と陽明学
- 10 日本における朱子学の受容と封建教学の形成
- 11 イギリス経験論と大陸合理論
- 12 ドイツ観念論哲学
- 13 功利主義と実存主義
- 14 近代日本における西洋思想の受容
- 15 期末試験

評価

出席・課題提出・期末試験により判定する。その比率は30点：30点：40点とする。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

文部科学省『高等学校学習指導要領』および『公民科解説書』、「倫理」・「現代社会」の検定済み教科書をテキストとして使用する。その他参考図書については、授業中に適宜指示する。

科目名	西洋史概説		
担当教員名	島村 妙子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本講では、こうした凄まじい経営環境の変化が生じた理由を歴史的経緯に沿って概説し、さらに身近な事例をとおして経営に関する基礎的知識をわかりやすく解説する。そして今後企業社会で生じる様々なビジネス活動の問題点を多角的に検討し、経営の本質を理解させるとともに、将来の就職先を決定する際のヒントを提示していくつもりである。

内容

講義形式を軸にしながらも、学生の、課題研究の場と発表・対話など参加型学習形態も織り交ぜていきたい。

1	世界史時代の到来と西洋思想史の位置づけ
2	ギリシャ的思惟とキリスト教思想の特色
3	中世封建社会の特質
4	近代社会形成の思想的背景
5	国民（近代統一）国家の形成過程
6	国民国家の確立と個人の自由・権利の関係
7	各国の議会主義確立の事情を探る
8	国民代表と委任代表の政治・社会思想
9	選挙権拡大と政党政治
10	各国の政党政治展開実情
11	ヨーロッパにおける立憲主義体制の確立
12	二つの世界大戦と民主化の進展
13	戦後民主主義の形とアジア・アフリカ
14	大衆社会化と現代民主主義
15	纏めのペ - パ - テスト（評価 ）

評価

課題小レポート・・・3題～4題（平常の成績）予習か事後確認の為に

出席点考慮・・・毎講義の最後の5-6分使用して学びの確認質問紙を配布し出欠確認票とする。

最終講義纏めのテスト・・・ノート・参考図書の持ち込み可

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 推薦書 1 - 有賀 弘・他著 『政治 - 個人と統合』第2版、東大出版会 311 / A
 2 - 川出良枝著 『西洋政治思想史』放送大学教育振興会 311.2/K
 3 - 有賀 弘・他著 『政治思想史の基礎知識』有斐閣ブックス

科目名	地理学（地誌を含む）		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-教職課程		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- (1) 中学校社会科の授業展開に必要な地理学の基礎的・基本的な事項を把握する。
- (2) 中学校社会科の授業展開に必要な地理学の各分野に関する内容の理解を深める。
- (3) 地理学の各分野の内容を踏まえた教材開発や指導方法などを考察し、実践的な指導力を育成する。

内容

1	(1) 地理学の学問体系とその構成
2	(2) 人文地理と自然地理の内容と基本概念(1)
3	(3) 地理学習と学習指導要領(中学社会科)
4	(4) 地理学習と学習指導要領(高等学校地理歴史科)
5	(5) 日本の地形と気候
6	(6) 世界の地形
7	(7) 世界の気候
8	(8) 地誌の内容〔アジアの世界〕(1)
9	(9) 地誌の内容〔アジアの世界〕(2)
10	(10) 地誌の内容〔ヨーロッパの世界〕(1)
11	(11) 地誌の内容〔ヨーロッパの世界〕(2)
12	(12) 地誌の内容〔南北アメリカの世界〕(1)
13	(13) 地誌の内容〔南北アメリカの世界〕(2)
14	(14) 地誌の内容〔アフリカの世界〕
15	(15) 地誌の内容〔オセアニアの世界〕

評価

出席20点・ペーパーテスト60点・発表と課題提出20点で総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・『最新地理図表』（第一学習社）